

# さわどい

สมาคมมิตรภาพ ไทย-ซาอุดีอาระเบีย

2004年9月  
増刊号

埼玉・タイ王国友好協会会報

# 埼玉王

発行  
埼玉・タイ王国友好協会事務局  
〒350-1192 川越市田町32-12  
武州ガス株内 ☎049-247-5428



▲シティチャイ・プラサー  
ト副知事



## タイ・メーホンソンで 調印!!



▲時野谷在タイ日本国特命全権大使を表敬訪問した原会長夫妻



▲調印式の前々日にピヤブツ  
ト教育政務官と会談



▲サインをする原会長

【資金の受け渡しと管理】

- 9 援助資金は工事開始時に30%、中間時に40%、竣工時に30%の返金を行うものとする。
- 10 返金は別添定のメーホンソン県教育局長義の口座にバークレーで払い込むものとする。
- 11 払い込まれた援助資金は使用に際し適正かつ適正に管理されなければならない。
- 12 建設に関わる費用については「M」は「S」にその明細を示さなければならない。
- 13 払い込まれた資金に対し「M」は「S」に対し領収書を発行する義務を有するものとする。

【引渡し及び竣工式】

- 14 援助施設の完成に際し、竣工式をもって引渡しが完了するものとする。竣工式は「S」及び「M」の両者協議の上で定めるものとする。

【顧問等に対する支援】

- 15 「M」は「S」の役員が友好を深めるため現地を訪れ、援助施設の訪問を希望する場合は「S」は領収書をもってこれを受け入れ支援を行うものとする。

【その他】

- 16 この覚書に定めのない事項、又は、疑義が生じた場合は「S」「M」の両者が協議をもって協議し定めるものとする。

以上、覚書の正として日本語及びタイ語で本書を2通を作成し、両者記名サインし以上、各自1通を保有する。

西暦 2004年 7月 23日 (タイ暦 2547年 7月 23日)

「S」 日本国 埼玉・タイ王国友好協会  
代表者 会長 原 亮  
「M」 タイランド王国 メーホンソン県  
代表者 副知事 MR. SITTICHAI PRASERTSRI

タイランド王国メーホンソン県学校施設建設事業に関する

覚書

タイランド王国メーホンソン県バンマハー郡における学校施設建設事業に關し、  
任意団体である日本国埼玉・タイ王国友好協会(代表者 会長 原 亮 (以下「S」といふ))及び、タイランド王国メーホンソン副知事 MR. SITTICHAI PRASERTSRI (以下「M」といふ))は次のとおり覚書を交換する。

【事業の主旨】

- 1 この覚書の主旨は「M」が管理する地域内にある学校施設の改善・充実を図るため、「S」は(民間ベース)無償資金援助を行うものとする。
- 2 この援助は「S」が理念とする日本国埼玉とタイランド王国の友好関係を深めるもので善意で行う行為であり、「M」はその主旨を充分理解するものとする。

【援助の対象】

- 3 この援助対象の学校はタイランド王国メーホンソン県バンマハー郡所在する BANKUDSAMSIB SCHOOL とする。
- 4 この援助対象の学校施設は生徒及び教師の宿舎(学舎)2棟(男性用及び女性用)とする。
- 5 この援助対象の規模および費用については「S」「M」両者協議の上、「S」が同意できるものとする。

【実施の期間】

- 6 実施期間は覚書交換日から1年以内に竣工する事を目標として「S」及び「M」は努力する。

【役割分担】

- 7 「S」は別添定する方法において建設資金を全額無償援助するものとする。
- 8 「M」は援助施設の設計・材料調達・施工・安全 等建設および完成後の維持管理に關する全ての責任を持つものとする。

本年総会で承認されたタイの教育支援事業の一つ、寄宿舎建設がスタートし、七月二三日、建設予定地に近い、タイ北西部のメーホンソン市で調印式が行われました。当協会からは、原会長をはじめ、顧問の山口泰明氏、西條副会長等が出席しました。調印後、挨拶に立ったシティチャイ・プラサート副知事とゴーンソル教育長は、謝意と共に建設工事の進行に必要な協力を約束しました。これで一月の完成に向けた工事がいよいよ始まることになりました。なお覚書は日本語とタイ語の二通が作成されました。覚書の内容は左記の通りです。



# 心暖まる調印式とパーティー



▲無事調印を終え、固い握手を交わす原会長とシティチャイ・プラサート副知事



▲後方に立つ8人は調印の証人として壇上に上がった当協会とタイの関係者。向かって右から西條正和当会副会長、山口泰明当会顧問、篠原勝弘総領事、佐藤満雄ランブーン新電元社長、安江和廣タイ新電元社長、ゴーソルメーホンソン県教育長他2名。



▶調印の前、メーホンソンの皆さんによるタイの音楽と舞踊が披露されました。またスライド使ったのバン・クッド・サムシップ・スクールの紹介がされました。



▲バン・クッド・サムシップ・スクールの校長先生に記念品を手渡す西條副会長。若い、この校長先生の教育にかける情熱の高さも候補地選定の決め手の一つとなった。

## 調印式での会長あいさつ



皆様本日は埼玉・タイ王国友好協会がメーホンソン県に初めて友好の架け橋となる教育関連施設建設をスタートする記念すべき素晴らしい日となりました。

当友好協会は一九九九年、当時埼玉県知事でありまたタイ王国の最高名譽ある白象勲章を拝受した土屋義彦氏が、自治体レベルでの外交を推し進めて行く中で、特に思い入れの深いタイ王国と更なる友好関係を築くことが、埼玉県とタイ王国にとって必要であるとの認識に立ち民間ベースでの草の根外交を促進していく為、これに賛同する経済界の人々を中心として設立いたしました。

設立当初より事業計画として「教育関連施設の建設」を目標として掲げ、二七〇名の会員から会費の一部を建設資金として毎年積み立ててまいりました。これはタイ王国国内にはまだ充分な教育環境が整っていない地域があること、そして子供たちが少しでもより良い教育環境の中で勉学に励み、より多くの子供達が勉強できる機会を作り立派な人になっていただきたいからであります。

この事業計画を具体化するために、昨年八月から調査に入りタイ王国教育省を訪問して「希望する学校施設は何か」「建設の候補地はどこか」等、視察時の協力をご相談する中で、教育省の方々に協会の趣旨を理解していただき、タイ王国の中から地方の九つの学校を候補として推薦していただきました。その中から一つ選びましたのがこのメーホンソン県バンマバー郡バン・クッド・サムシップ・スクールであり、今年の三月に現地を訪問調査し、役員会を開催し建設の可否を検討、総会でも満場一致で決議され寄宿舎を二棟建設することになった次第であります。この間ご協力を頂きました教育省またゴーソル教育長をはじめ関係者の皆様に大変お世話になり重ねて御礼申し上げます。

この寄宿舎の完成の暁には、より良い環境の中で一人でも多くの子供達が教育を受けることができるでしょう。そしてこれらの子供達が成長して社会人になり、やがて家庭を持ち、多くの立派な子供達を育て、タイ王国の発展、向上に貢献できることを望み、活躍する姿を期待しております。これは私だけでなく、当協会の役員および会員全員の夢でもあります。タイ王国教育省の皆様、メーホンソン県の皆様、バン・クッド・サムシップの校長先生をはじめ、現地の学校関係者の皆様、どうか私達の夢を叶えてくださいますようお願い申し上げます。

本日よりタイ王国の皆様とお会いして喜んでいただいている姿を見て改めて、今回の事業計画のスタートが切れた事に喜びを感じ感謝しております。寄宿舎はまだ完成していませんが、私の目にはもう新しい寄宿舎から学校に通う子供達の姿が映っておりますし、その子供達が一生懸命勉強する姿も映っております。

重ねて申し上げますが一人でも多くの子供達が教育を受けられ、またその子供達が安心して勉強に励む事ができるような教育環境を作ってくださいることを関係者の皆様をお願い申し上げます。  
(一部略してあります)



篠原勝弘総領事



シティチャイ・プラサート副知事



山口泰明顧問



ゴーソル教育長



▲メーホンソンへは、チェンマイからプロペラ機で35分。バス便だと約7～10時間かかる。



▲リス族の村から5時間歩き、バスに1時間半乗ってきたという子供達が華やかな民族衣装で踊りを見せてくれた。



▲リス族の若い村長さんに日本酒を勧めながら、言葉を交わす原会長。



▶原会長等もタイ関係者等と踊りの輪に加わり、会場はいっそう和やかな空気に包まれた。



# 広がる草の根外交

この度の調印式を行うまでには、西條副会長や事務局で、三月と六月に現地を訪問し調査を行いました。雨期の現地は訪れた人にしかわからないと思える程の過酷さでした。

これら二回の訪問と今回の調印式を通じてタイ北西部の様々な人達と様々な形で触れ合いがありました。



▲7月23日、メーホンソンの南70kmにあるクンユム旧日本軍博物館を訪れ、日本兵の鎮魂碑に献花する原会長と山口顧問

▶博物館の前に置かれた旧日本軍のトラックの残骸。館内には旧日本軍の兵隊が使用した銃や軍服、飯ごうなど、数多くの遺品が展示されている。上記博物館のHPアドレスは <http://www5f.biglobe.ne.jp/~thai/>



▶メーホンソン空港ではゴーンル教育長はじめスタッフの皆さんがVIPルームまで見送りにきてくれた。

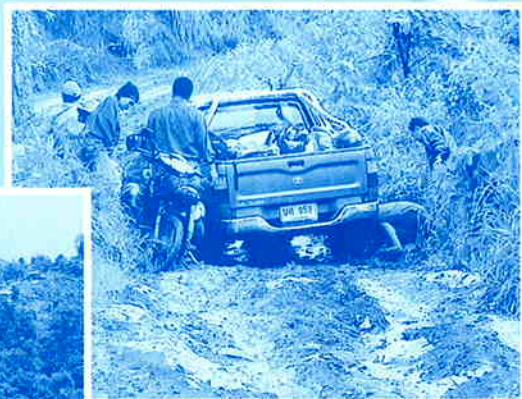


▲教育省の職員で、調査に協力してくれたニタヤさんも調印式に出席してくれた。



◀「サワッディ カップ」(こんにちは)、「コップン カップ」(ありがとう)、タイ式のあいさつを交わす原会長夫妻。

▼寄宿舎の建設を待つ、バン・クッド・サムシップ・スクール付近のリス族の村。



▲6月に現地を訪問した際、学校へ調査に行く行程でぬかるみに車輪を取られて立ち往生。すると、通りがかりの人達がチェーンの装着に協力してくれた。



## 編集後記

●調印式も無事終了し、いよいよ建設が始まります。来年一月末の完成を心待ちにしております。  
(Y)

●六月の現地調査では本当にびっくりしました。雪道以外でタイヤチェーンを装着したのは初めての経験でした。  
(S)